



ロイヤルメルボルン工科大学木版画づくり&紙漉き体験

6月24日(月)～29日(土)の6日間、ロイヤルメルボルン工科大学(オーストラリア)の学生28名が道の駅和紙の里ひがしちちぶに滞在し、和紙製作工程と紙漉き体験と共に、工房かみぐら(安戸代表 高野勉)、日本版画会(会長 町田えいめい)、東秩父村版画を楽しむ会(会長 倉林均)、なめがわ版画クラブ(会長 岩田昇)の協力のもと、初めての木版画づくりを体験しました。大学では様々な科目を専攻する芸術学部(学生一人ひとりが、個性あふれる作品を作成し、学生同士で何を作るか一緒に考えたり、完成した作品を見せ合ったりと東秩父村でのひと時を楽しみ、満足できる作品に仕上がったようです。また、和紙漉き体験では、和紙を漉くだけでなく乾燥工程等を体験する特別メニューを体験しました。なお、学生たちの作品は、11月19日(火)～24日(日)まで東京都美術館で開催される「第65回記念日本版画会展」にて展示され、その後12月以降に道の駅和紙の里ひがしちちぶにて展示予定です。

この事業は、団体滞在型インバウンド「和紙アートプログラム」として、オフィスハーベスト(日高市代表 武蔵聖子)が企画し、東秩父村和紙の里では2回目の実施となります。今後も、このような団体を招致し、東秩父村の手漉き和紙や木版画をはじめとする和紙アートの楽しさを世界に広めるだけでなく、インバウンド事業としても期待されます。(敬称略)



槻川小学校5年生 田植えを体験

6月19日(水)、晴天のもと槻川小学校5年生10名が江原國利さん(奥沢)、福島康雄さん(奥沢)にご指導いただき田植えを行いました。子どもたちの飲み込みも早く、すぐにコツを掴み、ひと苗ひと苗丁寧に植えていました。

しかし、田植えをするのはとても大変で、田んぼの中に足をつっこみ、慣れない土の中では一苦労。泥だらけになった子どもたちは、転ばないように気を付けながら苗を植えていました。

この大変な作業があるからこそおいしいお米を食べることができるのだと実感したことでしょう。

次回は稲刈りが10月ごろ行われます。がんばって植えた稲がしっかり育ち、おいしく食べられる日が待ち遠しいですね！

